

令和元年度 峰小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤に、心身ともに健康で、自分の夢や目標のために自ら考え進んで行動できる心豊かでたくましく生きる児童の育成

(1)健康でたくましい子【元気】(2)よく考え進んで学ぶ子【やる気】(3)心豊かで、思いやりのある子【思いやり】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「地域に学ぶ学校づくり」

教育基本法，学校教育法及び同施行規則，学習指導要領，栃木県教育委員会の指導の指針，宇都宮市教育委員会第2次学校教育推進計画，第2次宇都宮市学校教育スタンダード，平成31年度指導の重点等に合致した学校経営を目指す。また，本校の教育目標の達成のため，児童の実態や児童の発達段階，特性，地域社会や保護者の願いなどを十分把握するとともに，うつのみや学校マネジメントシステムを十分に生かすことにより，全教育活動を通して心豊かでたくましく生きる児童の育成に努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）児童が主役となる場を意図的に設定し，充実感や達成感を味わうことにより，自ら課題を持ち，進んで行動できる児童を育成する。
- （2）長所を引き出し，認め励ます教育を実践する中で，自己の成長を実感させ，自己肯定感を高める。
- （3）楽しく分かる授業の実践ときめ細かな指導の充実を通して学習意欲を高めるとともに，家庭と連携し家庭学習を推進することにより確かな学力の定着を図る。
- （4）地域の資源・人材を積極的かつ有効に活用するとともに，地域学校園の教育ビジョンを念頭に小中一貫教育の利点を生かした教育活動を推進し，信頼される学校の実現を目指す。
- （5）教育公務員としての自覚と責任を持ち，コンプライアンスを遵守するとともに，校務の効率化・簡略化を目指した組織的な対応を図り，勤務時間を意識した働き方改革を推進する。
- （6）教職員の専門性や特性が生かせる校務分掌や指導形態を工夫するとともに，校内研修を活性化させ，教育専門職としての資質と能力の向上を目指す。
- （7）ユニット部会を活用して教職員の学校経営への積極的な参画を促すとともに，組織マネジメントの考えに基づき，全教職員協働による教育目標の達成に努める。

〔陽東地域学校園教育ビジョン〕

地域の教育力を生かし，地域とのかかわりを通して，確かな学力の定着を図り，
心豊かでたくましく生きる子どもの育成

4 教育課程編成の方針

- （1）地域協議会を窓口とした保護者や地域団体等の学校への積極的な参画の推進
- （2）地域団体との連携と地域資源の積極的な活用の推進
- （3）外部の学校評価等を活用し，地域住民が来校したくなる開かれた学校・地域とともにある学校の実現
- （4）地域活動等への積極的な参加の奨励と相互理解の推進
- （5）地域の教育力を最大限に活用した働き方改革の推進

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- ・重点活動〔峰小 元気・やる気・思いやり活動〕の推進
- ・学校経営への参画意識の高揚と教職員による組織的な企画・運営の推進
- ・児童や地域の実態，地域の環境に即した教育計画の作成と実践
- ・自分の夢や目標の実現に向けてたくましく生きる児童の育成を目指した教育活動の推進

【 学 習 指 導 】【やる気】＝「自ら進んで表現できる児童の育成」

- 基礎・基本の確実な定着を目指した日々の学習とまとめの学習の充実，家庭学習の習慣化
- ・「できた」「分かった」が実感できる「分かる授業」の展開と個に応じた指導の充実

・学習目標の明確化と学習のまとめや振り返りを意識した学習展開の工夫
○「学習の約束」を活用した学習の準備、返事、チャイムの合図の順守の徹底
○読書活動の推進・充実と読解力の育成
【児童生徒指導】【思いやり】＝「自ら考え、適切な判断と行動ができる児童の育成」
・「峰小よい子の一日」や「陽東地域学校園児童生徒の目標」を活用したルールやマナーを守る態度の育成
・感謝の集いやいじめゼロ集会の実施、人権標語の作成による感謝する心や生命や人権を尊重する態度の育成
○「特別の教科 道徳」の指導の充実と道徳的実践力の育成
・共に学び合う場や互いの良さを認め合う場の意図的な設定による望ましい人間関係の醸成
・確かな児童理解に基づく自己肯定感を高める声掛けの継続と個を生かす教育の実践
○家庭や各種団体と連携したあいさつ運動の推進
【健康（体力・保健・食・安全）】【元気】＝「生涯にわたり心身の健康保持増進を図ることができる児童の育成」
・元気っ子チャレンジや各種検定への積極的な参加とあいさつ、返事の励行
・「元気っ子健康体力チェック」の活用と、自己の健康に関心を持ち、進んで運動に親しむ態度の育成
・歯磨きボランティアの活用による歯磨き指導（きらきらクラブ）の充実
○視力低下を防ぐ「目の体操」「姿勢体操」の指導
○望ましい生活習慣の育成と食に関する指導の充実
○教育活動全体を通した安全教育の充実・徹底、危険回避能力の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかり聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①「話し方のきまり」を掲示し、児童が発言したり話し合ったりする際の参考にさせる。 ②児童が多様な考えをもち、主体的に学習に取り組めるようにするため、授業の中に児童が考えたり話し合ったりする時間や自分の考えを発表する場を設ける。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は95.9%で数値指標を十分達成している。保護者の肯定的回答割合は昨年度より約2%上昇し、96%と高評価であった。 【次年度の方針】 地域学校園統一「学習のきまり」を活用し、学習指導に生かすことで、児童がより主体的に学習に取り組めるようにする。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①全ての教育活動の中で、自他の特徴や良さについて考えたり伝え合ったりする時間や場を設定する。 ②「特別の教科 道徳」において、児童の発達段階や特性等を考慮し、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的学習等を適切に取り入れるなど指導方法を工夫する。 ③感謝の集いやいじめゼロ集会を実施し、感謝する心や人権を尊重する態度を育成する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答割合は89.5%で、教職員、地域住民、保護者の肯定的回答割合は90%を上回った。 【次年度の方針】 継続して全ての教育活動の中で、自他の特徴や良さについて考えたり伝え合ったりする時間や場を設定するなど、具体的取組を教職員一丸となっていく。

す 児 童 の 姿	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①「学習のきまり」を掲示し、必要に応じて確認させるなどしながら、学習訓練を徹底させる。 ②「峰小よい子の一日」に基づいた生活目標を設定し、学級活動や朝・帰りの会等で繰り返し継続的に指導していくことにより、基本的生活習慣を身に付けさせる。 ③「峰小よい子の一日」徹底運動を行い、めあてをもたせたり振り返りをさせたりして、自覚を深めさせる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答割合は86.5%となり、数値目標を上回った。保護者、地域住民の肯定的回答割合も85%を上回った。 【次年度の方針】 学習のきまりや峰小よい子の一日に基づいた生活を継続して指導していく。さらに教師間の情報交換を密に行い組織的な学習指導や児童指導を継続して行う。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①あいさつを「今年度のテーマ」をして常に児童に意識させる。 ②あいさつ運動月間を設定するとともに、<u>PTA や地域協議会、地域学校園等と連携したあいさつ運動を実施する。</u> ③教職員が率先してあいさつをする。 ④あいさつの効果や重要性について、道徳や学級活動の時間、全体朝会・一斉下校等を活用して指導する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は93.8%で、数値目標を上回った。地域住民の肯定的回答割合は100%となった。保護者、児童生徒の肯定的回答割合も昨年度を上回った。 【次年度の方針】 教師がまず範を示しながら、学校全体でよりよいあいさつをしようとする意識を高めていく。年に2回のあいさつ運動では、児童会を中心に「あいさつのめあて」を設定したり、児童が進んであいさつ運動に参加できる場を意図的に設定したりしてあいさつの輪を広げていく。更に、PTAや地域協議会、陽東中学校園とも連携しながら、率先してあいさつができるように粘り強く指導する。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①授業において、既習事項をもとにすれば必ず解ける少し難しい課題を用意し、児童の挑戦意欲を喚起する。 ②黙々と努力することを必要とする課題に取り組ませる中で、自分の努力の結果と向き合わせ、次の意欲につなげる。 ③根気強く取り組む喜びやおもしろさ等を児童が自主的に見出せる課題を設定し、児童が最後までやり遂げられるように支援する。	A 【達成状況】 教職員・児童の肯定的回答割合は96.8%、91.9%と数値目標を大きく上回っているが保護者の肯定的回答割合は79.7%と数値指標をわずかに下回った。 【次年度の方針】 キャリア教育とも連携して、学習の積み重ねをファイルやシールなどで可視化することで、児童・保護者共に努力の結果が明確にわかるようにする。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①「うつのみや元気っ子チャレンジ」に参加し、楽しみながら運動する機会を数多く持たせる。 ②健康に関する意識を高めるために、学校医や養護教諭と連携した授業や保健指導を行う。 ③給食週間やお弁当コンクールなどの<u>食育行事に進んで参加するよう支援し、各自の望ましい食習慣の醸成を図る。</u> ④各種災害を想定した避難訓練、交通安全教室、不審者対応避難訓練を実施し、児童が危険を予測し、自らの命を守り抜くための行動力を育成する。	B 【達成状況】 保護者、教職員、児童、地域住民の肯定的回答が80%を超えている。「うつのみや元気っ子チャレンジ」に参加し、楽しみながら運動をした。また、栄養士や養護教諭、外部講師を活用した授業を行い、健康に関する子どもたちの意欲を高めた。 【次年度の方針】 今年度を実施したものに加え、体力・保健・食育・安全の4つの分野を関連させた授業や保健指導、給食指導を行う。

A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①学級や家庭のために活動することを通して、集団のきまりを守ることや自分の役割を果たすことの大切さに気付かせる。 ②働くことの意義を理解するために、社会科や総合的な学習の時間などにおいて、地域社会で働く人から話を聞いたり働く人と交流したりする活動を行う。 ③宮・未来キャリア教育に位置付けられている活動の振り返りを実施し、自らの成長や変容などの自己理解を促す。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答割合は91.9%となり、数値目標を大きく上回った。 【次年度の方針】 キャリア教育を推進し、進んで働くことの意義を理解したり、行動したりできる児童の育成を目指す。
A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①児童が英語を使って自分の気持ちや考えなどを適切に伝えることができるようにするために、教員が自ら積極的に英語を使うとともに、ALTを活用した、英語によるやりとりを中心とした授業を行う。 ②児童が生きた英語に触れる機会の充実を図るために、ALTとの交流給食やALTの学校行事への参加を行う。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は100%となった。児童の肯定的回答割合は93%で数値指標を大きく上回っている。 【次年度の方針】 引き続き、ALTを活用した、英語によるやりとりを中心とした授業を行ったり、ALTとの交流給食やALTの学校行事への参加を行ったりする。
A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①社会科の授業などにおいて、体系的な学習を行い、児童が郷土宇都宮の歴史や伝統文化、産業などについて理解し、郷土への愛情と誇りが持てるようにする。 ②国語科の授業などにおいて、百人一首に親しむ学習に取り組み、郷土宇都宮に対する誇りや愛情を育む。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答割合は84.5%で、数値指標は上回っているが、保護者の肯定的回答は61.7%にとどまっている。 【次年度の方針】 各学年の実態や教科に応じて、郷土宇都宮の歴史や伝統文化、産業などについて触れる機会をもち、郷土宇都宮に対する誇りや愛情を育むようにする。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①タブレット型パソコンをはじめとするICT機器を活用して、主体的・対話的で深い学びを促進し、児童の情報活用能力を育成する。 ②教科学習で学んだことを確かめたり、自分の考えをまとめたりするなど主体的な学習活動を効果的に行うために、学校図書館を活用する。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は100%となった。児童の肯定的回答割合は85.2%で数値指標は上回っている。 【次年度の方針】 タブレット型パソコンが導入されるので、パソコンをはじめとするICT機器の活用が更に充実するように研修を重ね、ICT機器を活用能力につなげる。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①高齢者への感謝や敬う心を育むために、生活科や総合的な学習の時間の授業などにおいて、高齢者を講師として招いたりインタビューしたりする学習活動を実施する。 ②高齢者を身近な存在として感じることができるよう、運動会や授業参観に招待する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答割合は、89.5%で、目標数値を大きく上回っている。生活科や総合的な学習の時間の授業などにおいて、高齢者を講師として招いたりインタビューしたりする学習活動を実施した。 【次年度の方針】 高学年では、社会科の学習などにおいて高齢者をゲストティーチャーとして招き、直接触れ合う機会を設ける。

目 指 す 学 校 の 姿	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について関心をもっている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①環境や国際理解、防災や食などをテーマにESD（持続可能な開発のための教育）に取り組む。 ②各教科において、これまで行ってきた学校行事や体験活動などを「持続可能な社会」の視点から関連付け、教科の枠を超えた横断的、総合的な教育活動を実践する。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は、58.1%で、目標数値を大きく下回った。 【次年度の方針】 「持続可能な社会」について、より分かりやすい事例を挙げながら、児童に説明する。年計に位置付け、教科との関連を図る。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①特別な支援が必要な児童について、個別の支援計画を作成・活用し、学校全体で指導にあたる。 ②学級担任とかがやきルーム指導員が指導目標や指導の手立てについて、直接話し合ったり、指導記録を確認したりする時間を設け、かがやきルームにおける指導の充実を図る。 ③保護者や関係職員（交流学級等）と丁寧に連絡を取り合い、交流及び共同学習を積極的に推進する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は100%となり、数値目標を上回った 【次年度の方針】 児童の実態をよく把握し、児童保護者に寄り添いながらケース会議等の話し合いをもち、さまざまな状況に迅速かつ柔軟に組織的に対応していく。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上（いじめ解消率 100%）	①いじめゼロ強調月間はもとより、あらゆる機会を通して、いじめが許されない行為であることを指導する。 ②アンケートや教育相談の結果を踏まえて、道徳や学級活動の時間に望ましい人間関係を醸成するための心情や判断力を育てる。 ③HP や学校だより・児童指導だより・学年だよりを利用していじめ対策や学校の現状を公表し、家庭・地域との連携を図る。	A	【達成状況】 教職員、地域住民の肯定的回答割合は100%となった。児童も99.1%と高い割合を示している。保護者も、肯定的回答割合が昨年度を上回り、90.5%となった。 【次年度の方針】 「いじめ防止強化月間」「教育相談」を実施する。いじめ防止のためのアンケートを2か月に1回程度実施する。学級において道徳科や学級活動などをはじめ全ての教育活動の中で、いじめは絶対許されないものだという心情を育てていく。また、ホームページや学校だより、児童指導だより、学年だより等を通して周知に努める。いじめのない学校づくりに教職員一丸となって取り組む。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①児童の自己肯定感を高めるために、児童が主体的に活動する場や活躍できる場を意図的に設定する。 ②児童と教師の信頼関係を構築するために、常日頃から児童同士の交友関係の把握に努めるとともに、受容的な態度で寄り添い、児童の話に積極的に耳を傾ける。 ③欠席状況共有シートなどで欠席状況を把握するとともに、校内教育支援委員会を活用し、学校全体で組織的・計画的に支援を行う。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答割合は98.5%となり、数値目標を大きく上回った。 【次年度の方針】 継続して左記の具体策に取り組んでいく。また、不登校未然防止のために欠席状況共有シート等を活用し、組織的な取組をしていく。

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①外国人児童が充実した学校生活を送ることができるように、外国人児童や保護者の情報を収集し、校内での指導体制について共通理解を図る。 ②外国人児童の母語で日本語を指導する母語指導者と日本語で日本語を指導する日本語ボランティアと連携し、外国人児童の日本語指導を行う。 ③外国人児童が在籍する学級においては、学級内の人間関係についてきめ細やかな配慮を行い、個性を認め合う受容的な学級づくりに努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は、100%で目標数値を大きく上回った。 【次年度の方針】 引き続き、外国人児童の母語で日本語を指導する母語指導者と日本語で日本語を指導する日本語ボランティアと連携し、外国人児童の日本語指導を児童の実態に応じて行う。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、今の学校が好きです」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①学校行事や児童活動等で、児童が自主的・主体的に取り組む場を意図的に設定する。特に、<u>あいさつ運動では、児童の発想や主体性を生かし、学校全体であいさつの気運を高めていく。</u> ②Q-U テストや学校生活アンケートを活用して、一人一人の児童にとって居がいのある学級づくり、分かる授業の展開に努める。 ③学級活動やロング昼休みを利用して、学級全員で遊んだり教師と児童が共に遊んだりする機会をもつ。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答割合は93.7%となり、数値目標を上回った。教職員、地域住民の肯定的回答割合は100%となった。保護者も95%を上回った。 【次年度の方針】 あいさつ運動を基軸に、学校行事や児童会活動で児童が自主的・主体的に取り組む場を意図的に設定し、学校に活気がある、明るくいいきとした雰囲気を醸成していく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①<u>授業のめあてを明確にするとともに、板書や発問、授業形態等を工夫した授業を行う。また、終末には授業で分かったことを振り返る時間をもつ。</u> ②児童一人一人の実態をとらえ、教材研究をするとともに、学校課題の研究や一人一授業等で積極的に授業を公開し、互いの指導法を向上させる。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答割合は昨年度同様、97.8%と数値目標を大きく上回った保護者の肯定的回答割合も昨年度同様90%を超えている。 【次年度方針】 昨年度に引き続き、振り返りの時間の確保を意識して行ってきたので、継続する。学校課題研究や一人一授業への取組も引き続き実施し、指導法の向上を目指す。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に係る職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①学校職員（学校図書館司書、学校栄養職員、ALT、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーなどを含める）が協力して学校業務に取り組める体制を整えるため、専門性や特性を生かした校務分掌を組織する。 ②チームとして学校の力を最大限に生かすために、事前に連絡や話し合いの場を設定する。さらに学校業務に取り組む中で進展状況及び達成度を確認し、改善策等を共有していく。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は、100%で数値目標を大きく上回っている。学校職員（学校図書館司書、学校栄養職員、ALT、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーなどを含める）が協力して学校業務に取り組める体制を整えることができた。 【次年度の方針】 引き続き、学校スタッフと学校業務の進展状況及び達成度を定期的に確認し、改善策等をさらに共有していく。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①学校は、長時間労働を改善するために、業務の精選、校務分掌の見直し、外部人材の活用など業務負担の軽減に取り組んでいる。 ②教職員は、効率的に業務を進め、長時間労働にならないように努める。 ③勤務時間を意識した働き方を推進するため、教職員が取りやすい形でリフレッシュデーを実施する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は、93.5%で目標数値を上回った。朝の打ち合わせの削減やミライム（掲示板、情報メール）の活用が、業務の軽減につながった。 【次年度の方針】 勤務時間を意識した働き方を推進する。業務の精選、校務分掌の見直しをさらに進める。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①交流授業や中学校訪問等を通して中学校進学に対する児童の不安軽減を図る。 ②<u>学校園で統一して登校指導・お弁当の日・統一献立・学校保健委員会等を行うことで学校園間の連携を強化する。</u> ③「陽東地域学校園ナビ」活用して児童・保護者の陽東地域への所属感を高める。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は、88.2%で、目標数値を上回った。6年生では交流授業と中学校訪問を行い、進学への意欲を持たせることができた。特に、交流授業は、事前に中学校の先生と打ち合わせを行い、5教科（国・算・英・音・体）を実践した。児童も、中学校の先生に直接教えてもらうことで、中学校の雰囲気を感じ取り不安軽減に繋がった。 【次年度の方針】 引き続き、学校園間の連携を強化していく。ホームページや学年・学校だよりなどで発信して児童・保護者の陽東地域への所属感を高める。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①「魅力ある学校づくり地域協議会」を窓口に、保護者や地域住民及び峰地域団体の学校教育支援活動を推進する。 ②地域の人材・教育資源を有効に活用した学習活動を展開し、地域の良さに気付く、地域に貢献しようとする態度を育成する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は93.4%で、目標数値を大きく上回った。学校は、地域協議会と連携し、峰地域の人材や資源を有効に活用して学習活動を展開してきた。児童は、お世話になった方々へお礼の手紙を渡すなど感謝の気持ちを伝えることができた。 【次年度の方針】 地域の教育力を生かして教育効果が高まる学習活動において、積極的に地域人材・資源を活用していく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①企業、地域の各種団体、「街の先生」、宇都宮大学、ボランティアなどとの連携・協力による活動をさらに充実する。 ②「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携を密にし、学校運営の充実を図る。特に、地域コーディネーターと連絡・調整を図りながら、学校支援ボランティアの活用を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は93.4%で、目標数値を大きく上回った。年間を通して地域協議会、学校支援ボランティアが様々な活動を行い、児童の健康促進、安全確保、学習環境づくりを強力に支援した。また、外部団体、宇都宮大学生による算数ボランティアを活用し、有益な研修会や効果的な授業実践を行った。 【次年度の方針】 引き続き、地域協議会や学校支援ボランティアと連携し、地域とともに歩む学校づくりをさらに推進していく。

本校の特色・課題等	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	①教室内外の掲示物を整えるとともに、定期的にロッカーや机の中を整頓させるなどして、学習にふさわしい環境を維持する。 ②場所に応じた清掃の仕方の指導の工夫や班長への指導の充実を図り、縦割り班清掃を通して望ましい環境整備に努める。 ③長期休業等を利用して、特別教室や資料室の整備を行う。 ④安全な学習環境を確保するため、日常的な点検を行い、施設・設備の維持管理や修繕を図る。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答割合 86.5%, 地域住民の肯定的回答割合 100%で目標数値を大きく上回った。定期的にロッカーや机の中を整頓させるなどして、学習にふさわしい環境を維持させることができた。日常的な点検を行い、安全な学習環境を確保した。 【次年度の方針】 校舎、遊具の老朽化による施設・設備の不具合が見られるため、早急な修繕を図る。
	A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①児童の情報活用能力を育成するために、タブレット型パソコンをはじめとする I C T 機器や学習に必要な備品を整備する。 ②学校図書館を活用した学習を効果的に行うために、学習に必要な図書を充実させるとともに、学校図書館司書と連携を図る。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は 100%となった。児童の肯定的回答割合は 85.2%で数値指標は上回っている。 【次年度の方針】 必要に応じて、学習に必要な備品を整備したり、学校図書館司書と連携し学習に必要な図書を充実させたりする。
	B1 児童は、峰小の合言葉「元気・やる気・思いやり」を意識して生活している。 【数値目標】 全体アンケート 「学校は、『元気・やる気・思いやり』の合言葉を意識して生活するよう指導している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①峰小の合言葉を行事や活動のねらいに位置付け、意識化を図る。 ②行事や集会等で、合言葉に沿って児童が活動する様子を示すことにより、よりよい校風づくりを推進する。 ③学校便り・学年だよりに児童の活動の様子を掲載し、保護者への合言葉の周知を図る。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 95.3%で、昨年度に比べ目標数値を上回った。学校行事や校内掲示物、学年だより等への関連記事掲載・写真挿入、朝会等での講話により「元気・やる気・思いやり」の合言葉の意識化を図ることができた。 【次年度の方針】 引き続き、合言葉に沿って学級目標を設定し、目標実現に向けて努力する様子を示すことにより保護者への合言葉の周知を図っていく。
	B2 児童は、各種検定カード等をもとに、めあてをもって運動に取り組んでいる。 【数値目標】 全体アンケート 「自分は、検定カードなどをもとにめあてを決め、達成に向けて努力している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①新体力テストの結果から、課題を明確にし、スポーツ集会や教科体育の時間に計画的に補強していく。 ②各種検定カード・ミニマムを活用して各人に応じためあてをもたせ、教科体育や休み時間に取組を支援する。なわとび検定では、児童同士で技を伝達する機会を設け、さらに意欲・技術の向上を図る。 ③取組の様子を、「元気活動」として学校だよりや学年だよりで家庭・地域に知らせ、意欲の向上を図る。	B	【達成状況】 教職員、保護者、児童の肯定的回答が 80%を超えた。各種検定カードを活用し、休み時間も取り組む児童の姿が多く見られた。なわとび検定では、委員会活動による講習活動を行い、意欲・技術の向上に努めた。 【次年度の方針】 引き続き児童にめあてを持たせ、取組を奨励していく。さらに学年に応じた鉄棒検定カードの作成を検討し、休み時間に進んで鉄棒運動に取り組めるようにする。

B3 児童は、読書の習慣がついている。 【数値目標】 全体アンケート 「自分は、楽しく読書をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①週2回の読書タイムを確実に実施する。 ②読書ノート「みね読書人」の一層の活用を図る。 ③図書館だよりや「読書いっぱい活動」により、家庭と連携して「家読」を奨励する。	【達成状況】 児童の肯定的回答割合は89.3%で数値指標を上回っている。保護者の肯定的回答割合は経年で徐々に上昇しているが、78.0%にとどまっている。 【次年度の方針】 引き続き、朝の「読書タイム」を継続するとともに読書ノートへの記入をその都度児童へ呼びかけ、記録を累積させる。冊数を増やすために担任や教員による本の紹介の場を設定していく。
B4 学校は、異学年・異校種間の交流や保護者・地域の方との交流により学校生活に潤いをもたせ、「来たる学校づくり」を推進している。 【数値目標】 全体アンケート 「自分は、異学年の友達や地域の方々と一緒に、充実した活動をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①児童会活動や学校行事等において、縦割り班での活動積極的に取り入れる。 ②授業や委員会、クラブ活動などにおいて、幼稚園・保育園・中学校・地域人材との交流を積極的に行い、内容の充実を図りながら、児童との豊かな心情を培う。	【達成状況】 児童の肯定的回答は91.0%で目標数値を大きく上回った。「なかよしタイム」「なかよし給食」「縦割り班清掃」での異学年交流により望ましい関係が築かれ、児童が楽しく学校生活を送る姿が見られた。社会科や生活科の学習において、幼稚園・保育園児や地域の高齢者、また、保護者やおやじの会、地域人材を学校行事や授業等に招致したことは、充実した活動に繋がった。 【次年度の方針】 引き続き、縦割り班での活動を積極的に取り入れ、幼稚園・保育園・中学校・地域人材との交流の機会を確保し、さらに充実した活動を計画・推進していく。
B5 児童は、自分の歯に関心を持ち、食後丁寧に歯磨きをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「自分は、食後ていねいに歯磨きをしている」⇒児童の肯定的回答 90%以上	①歯と口の健康に関する意識を高めるために、学校医や養護教諭と連携した授業や保健指導を行う。 ②保健だよりを毎月1回発行するとともに、むし歯のない児童や歯磨き名人を表彰して歯磨きへの意欲を高める。 ③保健委員会やボランティアを活用して、歯磨きの個別指導を実施する。 ④クラス全員での歯磨きをさらに徹底していく。	【達成状況】 教職員、保護者、児童の肯定的回答は90%を超えている。学級では給食後に歯磨きの音楽に合わせて歯磨きを継続できている。また、きらきらクラブでは多くの児童が歯垢の染出しを積極的に行い、歯の健康を保とうとする姿が見られた。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続して行うとともに、歯に関する取組について保健委員会をさらに活躍させていく。
B6 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値目標】 全体アンケート「自分の子どもは、家庭学習（宿題）をしている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①「家庭学習の手引き」を活用し、家庭時間の目安や自主学習の例などを示して、児童が主体的に家庭学習に取り組めるようにする。 ②家庭学習に対して適切な評価をするなど、児童の意欲を高める工夫をする。 ③学年だよりやHP等で家庭学習の意義や期待される効果を取り上げ、保護者の協力を得る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答割合は昨年度より上昇し92.6%と数値指標を十分達成している。教職員・児童の肯定的回答割合もともに90%を超えている。 【次年度の方針】 引き続き「家庭学習の手引き」を活用するとともに、各学年で自主学習ノートや家庭学習記録カードを利用して、休日を含めた家庭学習の習慣化を図る。「家庭学習がんばり週間」での取組や日々の取組での頑張りを学級内で称賛し、児童の意欲を喚起するようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

「目指す児童の姿」について

本校の重点活動【峰小 元気 やる気 思いやり活動】の視点から評価する。

「健康（保健・食・安全）・体力」【元気】においては、A6「健康や安全に気を付けて生活」が、教職員・地域100%、

児童 92.6%、保護者 89.7%と高い肯定的割合が得られた。また、本校独自の質問項目 B2「各種検定カード等をもとにめあてをもった運動」は、教職員・児童・保護者の肯定的割合が80%以上であり、B5「歯磨き」では、教職員・児童・保護者の肯定的割合が90%以上であった。これらの結果から、評価項目の数値目標は達成していることが分かる。今後も引き続き、体育の授業を中心に運動への関心が高まる活動を実践していく。さらに、保健の授業及び学級活動の時間を通して、児童が自分の体の成長や健康について正しく理解したり、安全への意識をもって生活したりすることができるように指導をしていく。食についても、毎日の給食指導や給食だより等による情報発信、食育コーナーの環境整備を継続していく。さらに、地域学校園共通の給食週間やマナー週間及び統一献立の実施、お弁当コンクールへの参加を通して食習慣の形成を図っていく。

「学習指導」【やる気】においては、A1「進んで学習」の肯定的割合は、教職員・保護者・児童95%以上であった。A5「目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む」は、教職員・児童は90%以上、保護者は79.7%であった。A8「英語を使ってコミュニケーション」は、教職員・児童90%以上であった。A9「宇都宮の良さを知っている」は、教職員・児童は83%以上であったが、保護者は61.7%と20ポイント近く差がついた。A10「ICT 機器や図書等を学習に活用」は、教職員・児童は85%以上、保護者は71.8%であった。A12「持続可能な社会への関心」は、児童90.2%であったが、教職員58.1%と30ポイントほど差がついた。これらの結果を総合的にみると、児童の肯定的割合はいずれも高く、児童は日々学校において進んで学習に取り組んでいる実態を捉えることができる。教職員・児童と保護者の肯定的回答の差が出たA9、A10については、参観授業及び学年便り等を通して理解を得られるように努めていきたい。A12については、「持続可能な社会」についての活動を年間計画に明記し、教職員の共通理解を図りながら指導をしていく。本校独自の質問項目 B3「読書の習慣」は、教職員96.7%・児童89.3%・保護者78.0%であった。児童の肯定的割合は89.3%と高いが、昨年度より5ポイント弱下がっている。読書ノート「みね読書人」の有効活用、家庭と連携した「家読」の工夫継続、地域学校園共通の活動を通して、更なる読書習慣の向上を図っていききたい。B6「家庭学習の習慣」は、教職員・保護者・児童90%以上であった。家庭学習については、「家庭学習の手引き」「家庭学習記録カード」を活用したり、「家庭学習がんばり週間」を設定したりしたことで着実に習慣化が図られてきている。引き続き保護者の理解協力を得ながら、家庭学習の習慣が維持継続できるように努めていきたい。

「児童指導」【思いやり】においては、A2「思いやりの心」及びA11「高齢者に対する感謝やいたわりの心」の肯定的割合は教職員・保護者・地域90%以上、児童89.5%であった。A3「きまりやマナー」は、教職員・保護者90%以上、地域・児童85%以上であった。A4「時と場に応じたあいさつ」は、教職員・地域・児童90%以上、保護者88.0%であった。A7「夢や目標をもって、社会に貢献できるように努力」は、教職員・児童は90%以上、保護者は79.7%であった。これらの結果から、多くの児童が相手を思いやる心や感謝の気持ちをもって生活していること、基本的生活習慣を身に付けていることが分かる。今後も全ての教育活動を通して、共に学び合う場や良さを認め合う場を設定し望ましい人間関係の醸成に努めたり、「峰小よい子の一日」を活用しルールやマナーを守る態度の育成を図ったりしていく。あいさつについては、教職員が率先して範を示しながら、あいさつの重要性を日常的に指導していく。さらに、定期的にあいさつ週間を設定し、PTA・地域協議会・地域学校園と連携しながら児童会主催の「あいさつ運動」を実施することで、あいさつの機運を高めていく。

その他として、本校独自の質問項目 B1「児童は「元気・やる気・思いやり」を意識して生活」は教職員・地域100%・保護者95.3%・児童95.0%であり、本校児童の目指す児童像を示した合言葉が十分に意識されていることが分かる。

「目指す学校の姿」について

A14「いじめ指導」の肯定的割合は、教職員・地域100%・保護者90.5%・児童99.1%であった。A15「不登校を生まない学級経営」は、教職員100%・保護者92.5%・児童98.5%であった。「学校はいじめを絶対に許さない」という認識のもと、全教職員が共通理解を図りながら指導をしてきた。今後も、全ての教育活動の中で、「いじめは許されない行為である」ことを指導し続け、自他の特徴やよさに気付かせながら自己肯定感を高め、周りに感謝する心や生命や人権を尊重する態度の育成に努めていく。不登校についても、「未然防止に努める」ことを第一とし、「一人ひとりにとって居がいのある学級」づくりに引き続き努めていく。

A17「学校は活気があり明るい」の肯定的割合は、教職員・地域100%・保護者95.2%・児童93.7%であった。A18「教職員は学力向上を図っている」は、教職員100%・保護者91.3%・児童97.8%であった。今年度、教職員は学習目標の明確化と学習のまとめや振り返りを意識した授業を実践してきた。今後も、教職員が一人一授業を公開しながら授業研究に努め、「分かる授業」の展開と個に応じた指導を充実していく。

A21「小中一貫・地域学校園の取組」の肯定的割合は、教職員100%・保護者88.2%・地域92.9%・児童86.1%であった。A22「地域の教育力を生かした特色ある教育活動」A23「家庭・地域・企業等との連携・協力」は、教職員・地域100%・保護者94.1%・児童93.4%であった。本校独自の質問項目 B4「来なくなる学校づくり」は、教職員・地域100%・保護者87.1%・児童91.0%であった。これらの結果を踏まえると、学校経営方針の一つである「地域の資源・人材を積極的かつ有効に活用するとともに、地域学校園の教育ビジョン（「地域の教育力を生かし、地域とのかかわり

を通して、確かな学力の定着を図り、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」を念頭に小中一貫教育の利点を生かした教育活動を推進し、信頼される学校の実現を目指す。」のもとに、教育活動が着実に推進されていることが分かる。今後も、教育目標を保護者・地域と共有しながら、教育課程において児童に育むべき必要な資質・能力を明確にして教育活動を推進する。その際に、地域協議会を窓口地域人材・資源の積極的な活用を図り、地域と連携しながら教育目標の実現を図っていく。また、実施した教育活動については、学校だより・学年だより・懇談会・ホームページで積極的に紹介し、学校教育への理解を深めていく。

A24「安全に配慮した環境づくり」は、教職員100%・保護者88.5%であった。A25「学習に必要なICT機器や図書等を整えている」は、教職員100%・保護者71.8%・児童85.2%であった。学校の施設・設備に関しては、日常点検と定期的点検を実施し、問題箇所が見つければ、修理や補修及び予防的措置に取り組んできた。引き続き、安心安全な環境づくりに努めていく。ICT機器や図書等については、学校配当予算を有効活用し、教育効果を高める教材を計画的に揃えていく。

その他、教職員だけが回答する項目と肯定的割合は、A13「特別な支援を必要とする児童生徒への適切な支援」100%、A16「外国人児童生徒等への適切な支援」100%、A19「職員全員がチームとなり協力」100%、A20「業務の効率化」93.5%であった。今後も、教職員が教育に対する高い意識をもち、指導力を互いに生かしながら組織的に教育活動を推進していく。

7 学校関係者評価

【目指す児童の姿について】

(1) 健康（保健・食・安全）・体力について【元気】

- ・教職員と児童の肯定的割合が90%以上となっていて、意識した取組が行われていると思う。
- ・休み時間には、みんな元気に外遊びをしていて、子どもたちの姿に活力をもらえる。
- ・校庭を元気に走り回っている姿を見て、良好と思われる。
- ・校庭での体育の時間を見ていると、子どもたちが元気に運動していて体力向上が期待できる。
- ・もっと外遊びの時間を増やしてほしい。
- ・各項目とも、とても頑張っている印象がある。学校以外でスポーツをやる児童としない児童にどうしても差があるのはやむを得ない。
- ・子どもの体力低下が言われている中で、もっともっと外で遊び、体力を身に付けることが将来的には必要である。
- ・縄跳び検定カードが新しくなったと授業参観で伺った。引き続き、子どもたちが意欲をもって技術向上に努め、できる子はできない子へ伝達する機会を増やし、ほめてあげ、更に自信をつけるといった良い取組を期待したい。
- ・「目標を達成する、喜ぶ、習慣になる」といったローテーションができるように願う。

(2) 学習指導について【やる気】

- ・全般的に良好である。
- ・保護者の温度差があるので、保護者の肯定的割合が低いものの、児童の肯定的割合が比較的高いので、児童なりに頑張っていると思う。
- ・少人数の学級が多いためか、一人一人への目が行き届いているように感じる。高学年対象の習熟度別授業がより充実すると更によいと感じる。
- ・真面目に取り組む児童が多いと思う。A9「宇都宮の良さ」、A10「ICT機器や図書等を学習に活用」、A12「持続可能な社会への関心」への理解を深めてほしい。
- ・A9「宇都宮の良さ」では、児童の肯定的割合84.5%に対して保護者61.7%と差が出た。授業で学習していると思うが、家でそのことを話したり、またはあえて宿題として取り組ませたりしていないことが、保護者の目から見ると宇都宮の良さを知っていると映らずに肯定的割合が低くなったのではないか。A10「ICT機器や図書等」においても、同様ではないか。
- ・読書、図書の活用について、保護者は、もう少し頑張ってもらいたいと思っているようなので協力できればと思う。
- ・授業参観などで児童を見ていると、自分から積極的に手を挙げて意見を言うなどやる気が見て取れる。
- ・子どもたちは多くの可能性をもっている。長所を伸ばす指導をしてほしい。平均的な人間育成では大きな期待はもてない。
- ・外部講師等を招き、お金の大切さ、お金の使い方の授業を行ってもらいたい。

(3) 児童指導について【思いやり】

- ・教職員からみて、思いやりに関する項目の肯定的割合が高いことに安心できる。小学生のうちに身に付けることが必要であり、A14「いじめ指導」の児童の肯定的割合が99.1%なことが嬉しい。
- ・いつ訪れても気持ちの良いあいさつをする子どもが多く、大変感心している。教職員の指導が良いものと思われる。

- ・気配り、目配り、思いやりの精神は一生必要である。核家族により、その良さが薄れてきており、今一層の指導をお願いしたい。
- ・児童、保護者、教職員、地域住民ともに肯定的割合が90%と高く、このまま肯定的割合を保ってほしい。
- ・高齢者から昔遊びを教わっているが、今後も高齢者にはご協力をいただきたい。

【目指す学校の姿について】

- ・これらの項目について、ほぼ90%以上の肯定的回答が得られていることに自信をもっていいと思う。A25「学習に必要なICT機器や図書等を整えている」については、予算との関係があるので、これから充実していけばよいと思う。
- ・校長先生を始めとする教職員の方々が様々な場面で、きめ細やかに目配りをしてくださっている様子にいつも有難く思っている。
- ・学習指導について、教職員は一人一人頑張っていると思う。
- ・教職員の児童に対する指導がかなり行き届いているので、肯定的回答が数値目標を上回っており素晴らしい。
- ・小さなことはボランティアにより頼み、先生方が教育のプロフェッショナルとしての業務に集中できる環境がもっとつくることが理想的であるとも考えている。
- ・勉強でも仕事でもそうだが、実行して本人が充実し楽しくなければ、よい結果につながらない。軽重緩急をつけ、教職員、児童、保護者が楽しく思えるような対策立案を願いたい。
- ・いじめ関係については、皆無のようで良好である。「学校の活気」については、もう少し活発さが出ればよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校関係者皆様のご意見から、本校児童・教職員が温かく見守られていることが実感できた。今年度の評価を基に、児童がより充実した学校生活を送ることができるように「一人ひとりにとって居がいのある学級づくり」「分かる授業の展開と個に応じた指導の充実」「学習環境の整備・充実」に引き続き努めていく。また、学校の教育活動や児童の様子を保護者・地域に適宜発信したり、学校公開を行ったり、保護者・地域と課題を共有し役割を分担して対応したりするなどの連携を図り、地域とともにある学校の実現に、より一層努めていきたい。

次年度も学校運営の最重点活動である【峰小 元気・やる気・思いやり活動】を、今年度明確になった成果と課題を踏まえながら「チーム峰」としての組織力を発揮して全校体制で推進していく。

健康（保健・食・安全）・体力について【元気】

- ・「健康でたくましい子」の実現活動として、「自己の健康に関心を持ち、進んで運動に親しむ態度の育成」「望ましい生活習慣の育成と食に関する指導の充実」に努める。次年度は、今年度の授業実践を基に「体力・保健・食育・安全」の4つの分野を関連させた授業や保健指導、給食指導に取り組んでいく。特に、視力低下防止の指導及び食に関する指導については、家庭に情報を発信するとともに地域学校園とも連携を図りながら取り組む。

学習指導について【やる気】

- ・「よく考え進んで学ぶ子」の実現活動として、「基礎・基本の確実な定着」「まとめの学習の充実」「家庭学習の習慣化」に努める。特に、「できた」「分かった」が実感できる授業展開の工夫と個に応じた指導の充実を通して、学力の向上を図る。また、地域学校園統一の「学習のきまり」を活用し、学習習慣の定着を確実に図っていく。読書についても、家庭と連携した「家読」の工夫継続、地域学校園共通の読書活動を通して、読書習慣の向上を図っていく。

児童指導について【思いやり】

- ・「心豊かで思いやりのある子」の実現活動として、「あいさつ運動」の推進に努める。あいさつ運動では、児童会を主体としてPTA・地域学校園などと連携して実施し、あいさつを通して周りの人を大切にする態度を育成する。また、「峰小よい子の一日」に即した指導を継続的に行い、ルールやマナーを守る態度を育成するとともに、全教育活動の中に共に学ぶ合う場や自他の良さを認め合う場を意図的に設定し、児童の自己肯定感を高め、望ましい人間関係の醸成に努めていく。